

令和3年度 学校評価実施報告書

学校名（大原野中学校）

**教育目標**

『すべての教育活動を通して伝え合う力（コミュニケーション能力）と課題解決能力を向上し、たくましく未来を拓き、地域社会に貢献できる生徒を育成する』

**年度末の最終評価**

自己評価	<b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b> 校内研究において、実社会で生きて働く学力を身に付けることをテーマに取り組んできた。授業の振り返りやパフォーマンス課題の設定に全教科で取り組み、コミュニケーション能力と課題解決能力の向上を図った。その結果、アンケートの「基礎学力が身についている」については、生徒・保護者ともに肯定的意見が増加した。学習確認プログラムにおいても良い結果となって出る教科があった。 また、文化祭や体育祭を生徒の自己実現の場として捉え、取り組んだ結果、「学校行事に積極的に参加している」については、肯定的意見が約80%から約88%と8ポイント増加した。次年度も引き続き内容等を工夫して取り組んでいきたい。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> この一年コロナ禍にありながら、教職員の皆様が日々の授業に工夫を凝らし、文化祭や体育祭も新たなやり方で開催して頂いたことに対し、心より感謝申し上げます。

**学校関係者評価の評価日・評価者**

	評価日	評価者
中間評価	令和3年10月25日	学校運営協議会
最終評価	令和4年3月14日	学校運営協議会

**(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』****重点目標**

すべての生徒に、実社会で生きて働く学力を身に付ける

**具体的な取組**

- ① 学習指導要領の趣旨を踏まえ、習得した知識・技能を活用して、自ら思考・判断し、表現できる生徒の育成に努める。
- ② 協働的な学びを取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- ③ パフォーマンス課題やポートフォリオなどを取り入れ、指導と評価の一体化を図り、授業改善に生かす。それとともに、生徒自身が自らの学習状況を把握し、学習活動の改善に取り組み意欲を向上させる授業を目指す。

- ④ GIGA スクール構想により配備された 1 人 1 台のコンピュータ端末を活用し、生徒全員が主体的に参加できる授業づくりを目指す。
- ⑤ キャリア教育の視点から進路指導や職業体験等をとらえ、生徒の社会的・職業的自立を目指すとともに、全ての生徒の進路保障に努める。
- ⑥ 特別な支援を要する生徒に配慮し、個に応じた指導を進める。
- ⑦ 教科横断的な視点を持ち、カリキュラムマネジメントを進め、授業改善の PDCA サイクルを確立する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒の話す、聞く態度の変容
- ・各種テストからの分析の結果
- ・評価アンケート（家庭学習の習慣が身についていますか。読書の習慣が身についていますか。など）

### 中間評価

各種指標結果

1年生ジョイントプログラムでは全市平均と比べ、国語+0.1 ポイント、数学-0.5 ポイント、総合-0.3 ポイントであった。

2年生プレステージ1では全市平均と比べ、国語-1.1 ポイント、社会+0.9 ポイント、数学+1.9 ポイント、理科-3.7 ポイント、英語-2.3 ポイント、総合-1 ポイントであった。

3年生ファーストステージでは全市平均と比べ、国語-4.5 ポイント、社会-4.1 ポイント、数学-5.8 ポイント、理科-7 ポイント、英語-1.6 ポイント、総合-4.7 ポイントであった。

全国学力・学習状況調査では全国平均と比べ、国語-6.6 ポイント、数学-5.2 ポイントであった。

家庭学習の習慣化については、1年約 72% 2年約 58% 3年約 53% と学年が上がるにつれて減少しているが、全体では、昨年度と比べると約 2% 増加している。逆に読書の習慣化については、約 4% 減少した。

自己評価

分析（成果と課題）

平素の授業における発表や学校行事での様子から、話す、聞く態度は各学年とも成長が見られる。

また、授業で満足感や達成感を持っている生徒は約 82% と昨年度より約 10 ポイント増え、約 89% の生徒が授業において教師が工夫や努力をしてくれていると感じている。

しかし、各種テストの結果から、学校と家庭の連携を深め家庭学習を習慣づけることが喫緊の課題と考えられる。家庭学習の習慣化を目的に実施中の週末課題については、量や内容を吟味して今以上に効果が表れるようにしたい。

分析を踏まえた取組の改善

基礎学力の定着をはじめ、学力向上につながる手立てを各教科で考えていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・各種テストからの分析の結果
- ・評価アンケート（家庭学習の習慣が身についていますか。など）

学校

学校関係者による意見・支援策

授業で満足感や達成感を持っているという肯定的回答を寄せる生徒が 8 割を超えたというこ

関係者評価	<p>とは、「確かな学力」の育成に向けての教師や生徒の工夫や努力の成果であり、この現象は大変喜ばしい。</p> <p>しかし、学力の評価が数字として評価される一面もあり、結果（ポイントアップ）を出すことも求められているのも事実。なかなか難しいことではあるが、家庭学習の習慣づけを是非重点的に取り組んで頂きたい。</p>
-------	---

### 最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>1年生 Basic Stage1 では全市平均と比べ、国語-3.8 ポイント、社会+0.8 ポイント、数学+13.3 ポイント、理科-4.8 ポイント、英語+0.6 ポイント、総合+1.1 ポイントであった。</p> <p>2年生 Pre-Stage2 では全市平均と比べ、国語-3.0 ポイント、社会+0.1 ポイント、数学-6.1 ポイント、理科-5.9 ポイント、英語-2.2 ポイント、総合-3.4 ポイントであった。</p> <p>3年生 2nd Stage では全市平均と比べ、国語+2.0 ポイント、社会+1.8 ポイント、数学-6.3 ポイント、理科-6.1 ポイント、英語+3.1 ポイント、総合-1.2 ポイントであった。</p> <p>総合では、1・3年生が前回に比べ伸びている。</p> <p>家庭学習の習慣化については生徒全体で7月の約60%から約66%へ約6ポイント増えた。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>平素の授業における発表や文化祭・体育祭といった学校行事での様子から、話す、聞く態度は各学年とも更なる成長が見られる。</p> <p>また、授業で満足感や達成感を持っている生徒は7月の約82%から約84%へ約2ポイント増え、約95%の生徒が授業において教師が工夫や努力をしてくれていると感じている。</p> <p>各種テストの結果にも成果が表れてきたが、今後も学校と家庭の連携を深め家庭学習を習慣づけることが必要である。家庭学習の習慣化を目的とした各教科による課題については、量や内容を吟味して今以上に効果が表れるようにしたい。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>基礎学力の定着をはじめ、学力向上につながる授業を展開し、それを定着させる家庭学習の習慣をつける手立てを学校全体で考えていく。</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>アンケート結果にもあるように、「家庭学習の習慣化」については、なかなか難しい課題かと思いますが、根気よく家庭学習の習慣づけに取り組んでいって頂きたいと思います。</p>

### (2) 「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に根ざした道徳授業の展開を行う</li> <li>・人権教育を全教育活動の中に位置づけ、自分も他人も大切にする生徒の育成に努める</li> </ul> <p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「大原野メソッド」を取り入れ、考え方議論する道徳を推進する。</li> </ol>
--	--

- ② 小中で道徳授業を公開参観し、互いの取組について研修する。
- ③ ワークシートを活用し、学習の様子や発言・記述・パフォーマンスなどから評価の実践を行い、道徳の評価の指標を充実させる。
- ④ すべての教育活動を通して人権教育を推進する。
- ⑤ 様々な交流や体験の機会を設け、人権学習を進める。
- ⑥ 障害者に対する差別の問題や外国人問題、同和問題、LGBT等性的少数者に対する差別の問題など、多様な人権問題に取り組み、人権意識の高揚を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・評価アンケート（進んで挨拶をしていますか。あなたは他人を思いやったり、親切にしていますか。地域の行事に参加していますか。ボランティアの積極的に参加していますか。など）

### 中間評価

**各種指標結果**

肯定的回答の割合

- ・「進んで挨拶をしている」 生徒 約 85%，保護者 約 83%，教職員 約 80%
- ・「他人を思いやり、親切にしている」 生徒 約 95%，保護者 約 95%，教職員 約 93%
- ・「地域行事に参加している」 生徒 約 58%，保護者 約 56%

**自己評価**

「進んで挨拶をしている」については生徒の肯定的回答は昨年度の同時期より約 14 ポイント増加している。自分から気持ちの良い挨拶をしてくれる生徒も多い。しかし、実際に登下校時に校門に立つと、挨拶をしても返せない生徒もいる。普段から地域での挨拶がしっかりでき、保護者や地域の方が学校に来られたときにも進んで挨拶ができるようにしていきたい。

「他人を思いやり、親切にしている」についても生徒の肯定的回答は昨年度より約 3%増加しており、本校の道徳教育や人権教育の成果が見られる。

**分析を踏まえた取組の改善**

生徒会活動をはじめ、生徒が自発的に挨拶できるような取り組みを考えていきたい。

**(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標**

- ・評価アンケート（進んで挨拶をしていますか。あなたは他人を思いやったり、親切にしていますか。地域の行事に参加していますか。など）

**学校関係者評価**

昨今は地域全体の印象として、人ととのつながりが希薄になったと感じている。だからこそ「進んであいさつをする」「他人を思いやり、親切にする」といったことは日常生活を送る上で最も大切なことであり、このことは中学生には、中学生の今だからこそ徹底的に身につけさせたいと思う。家庭でも学校でも地域でも皆が中学生の手本でありたい。

### 最終評価

**(中間評価時に設定した) 各種指標結果**

肯定的回答の割合

- ・「進んで挨拶をしている」 生徒 約 85%から約 93%に増加、教職員 約 80%から約 75%に減少

・「他人を思いやり、親切にしている」 生徒 約 95%から約 96%に増加、教職員 約 93%から約 81%に減少
・「地域行事に参加している」 生徒 約 56%，保護者 約 50%

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題  「進んで挨拶をしている」については生徒の肯定的回答は前回より約 8 ポイント増加しているが、挨拶をしても返せない生徒が依然としている。普段から誰に対しても進んで挨拶ができる生徒を育てていきたい。  「他人を思いやり、親切にしている」についても前回に続き、殆どの生徒が肯定的回答をしており、本校の道徳教育や人権教育をはじめとした日々の指導の成果が見られる。
	分析を踏まえた取組の改善  生徒会活動や学年の取り組みで、生徒が自発的に挨拶できるよう工夫していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策  「進んで挨拶をする」「他人を思いやり、親切にする」といったことは、日常生活を送る上で大切なことであり、中学生が自発的に挨拶ができる、そんな環境や雰囲気づくりに努めて頂きたい。

### （3）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
・心の健康に重点を当てた取り組みを充実させる。 ・食に関する指導を充実させる。 ・生徒一人一人の発達段階に合わせた体力の向上を図る。
具体的な取組
① 自他の生命を尊重する意識を高めるとともに、安全についての実践的な能力や態度を育てる。 ② 望ましい生活習慣の確立を目指し、食に関する指導の充実を図る。 ③ 自ら進んで体力の向上と健康の増進を図る態度を育てる。 ④ 部活動等を通して心身を鍛えるとともに、最後までやりぬく粘り強い生徒を育てる。 ⑤ 登下校の安全確保はもとより、防犯に関する指導の充実を図るとともに、地震・火災などの防災に対する意識の向上を図る。
(取組結果を検証する) 各種指標
・評価アンケート（毎朝朝食をとっていますか。・充分睡眠をとっていますか。自分からすすんで体を動かしていますか。など）

### 中間評価

各種指標結果
肯定的回答の割合
自 分析（成果と課題）

自己評価	「早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活が送られている」では、生徒の回答は昨年に比べ微増にとどまり、ゲームや携帯電話などに時間を取られてしまっている生徒が少なからずいることが考えられる。今後も家庭の協力を得て、規則正しい生活が送れるようにしていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 生徒達の変化に気づけるように、日頃から家庭との連携を働き掛けていきたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・評価アンケート(早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活が送られていますか。など)
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策  「早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活が送られているか」といったところまでも心配してあげないといけないのが、今どきの中学生の生活ぶりなのかと思うと、少し寂しい気持ちになる。  中学生の心身ともに豊かな成長を願うのは誰しも同じである。家庭の協力を得て、より細やかに中学生の生活面での指導を引き続きお願いしたい。

#### 最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果  肯定的回答の割合  ・「早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活が送られている」 生徒 約77%から約83%に増加、保護者 約76%から約72%に減少
	分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題  「早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活が送られている」では、肯定的意見が前回に比べ生徒は増加したが、保護者は逆に減少しており、両者の捉え方の差が開いてきた。家庭訪問といった家庭生活の把握する機会が十分でないことが課題である。
	分析を踏まえた取組の改善  家庭と連携を十分取りながら、生徒達が規則正しい生活が送れるようにしていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策  中学生の心身ともに豊かな成長をと願うのは、地域の変わらぬ思いです。家庭との連携をより深め、より細やかに中学生の生活面での指導をお願いします。

#### (4) 学校独自の取組

重点目標
・郷土愛を育み、確かな学力と豊かな人間性の育成する小中一貫教育の創造
具体的な取組
① 上里小学校・大原野小学校と連携し、小中一貫教育の研究を進め、実践化を図る。
② 「大原野の子は、大原野で育てる」の精神をもって、教育活動に取り組む。
(取組結果を検証する) 各種指標
・小中連携においての各主任会の内容検討

- ・主任会からのフィードバック
- ・全体把握

## 中間評価

### 各種指標結果

小中連携主任会を開催し、各校の現状の共通理解と目標の共有を図った。主任会の記録を全教職員発信している。年3回大原野学園通信を発行し、地域の全家庭に配布している。

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	1年生の約93%が「楽しく学校に通っている」と回答し、小学校から中学校へスムーズに適応できたのではないかと考える。 夏休みに教職員間で小中合同研修会、児童生徒による「小中つながり会議」を実施することができた。合同研修会で共有した内容を教育活動に生かしていくことが今後の課題である。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	小中連携主任会を中心に、小中で問題点や課題を共有し、9年間を通して子ども達が成長していくよう今後も協力体制を維持していく。
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b>
	・1年生の「楽しく学校に通っている」という回答を前後で比較する。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>  小学校との連携を取りながら、小中一貫教育の研究をさらに進めて実践に移していく頂きた い。もし、小学校から進学して最初に中学校の授業様式に戸惑う生徒がいるのなら、全力で助けてやってほしい。 今はコロナ禍で基本的には中止しているが、今後の地域イベントではできるだけ中学生の参加を呼びかけたい。

## 最終評価

### （中間評価時に設定した）各種指標結果

小中連携主任会を開催し、各校の現状の共通理解と目標の共有を図った。主任会の記録を全教職員発信し、さらに共通理解を図った。大原野学園通信を発行し、地域の全家庭に配布した。3校の学校だよりを掲示し、生徒に紹介した。

自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	1年生で「楽しく学校に通っている」と回答した生徒が、約93%から約95%に増加した。行事などを通じて、中学校に馴染むことができたのではないかと考える。
	小中で連携して教育活動に取り組んでいくことが、今後の課題である。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	小中連携主任会を中心に、小中各校における問題点や課題を共有し、9年間を通して子ども達が郷土愛溢れる人間に成長していくよう今後も協力体制を維持していく。

学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>小中一貫教育の研究や研鑽をさらに深めていって頂きたい。中学校生活にも慣れて、1年生で「楽しく学校に通っている」と回答した生徒が増えたということは、大変喜ばしいことです。コロナ禍でほとんどが中止になりましたが、今後の地域イベントでは出来るだけ中学生の参加を呼びかけたいと思います。</p>
-----------------------------	---

## (5) 教職員の働き方改革について

重点目標	<p>教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。</p>
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事を精選する。</li> <li>・会議を精選、効率化をはかる。</li> <li>・平日の電話応対時間を午後7時半まで、長期休業中は午後5時とし、以降は留守番電話に切り替える。</li> <li>・働き方改革に関する研修を行う。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の超過勤務時間</li> <li>・年休取得の状況（取得率など）</li> </ul>

## 中間評価

各種指標結果	<p>教職員の超過勤務時間は、昨年度と比べて減少している。 年休については夏季休暇中に積極的な取得が進んだ。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b> 業務の進め方を工夫することや、分担して業務を行うことを日頃より周知している。成績処理の時期は時間外勤務が増えてしまうのが課題である。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b> 午後7時をめどに業務を終了して退勤することを意識する。</p> <p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の超過勤務時間</li> <li>・年休取得の状況（取得率など）</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>外見からは教職員の仕事はなかなか見えづらい。まずは、週に一度の早帰り日には教職員全員が定刻に退勤することを徹底して頂きたい。年休取得には取りやすい職場の雰囲気、環境づくりが必要だと思う。</p>

## 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
教職員の超過勤務時間は、前回と比べてさらに減少している。	
年休については冬季休暇中でも積極的な取得する教職員が多かった。	
自己評価	<p><b>分析 (成果と課題)</b>, 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>校務支援員に印刷業務などを依頼することで、業務時間の短縮を図ることができた。成績処理の時期は依然として時間外勤務が増えてしまうのが課題である。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>午後 6 時 30 分をめどに業務を終了して退勤することを意識する。</p> <p>来年度については電話対応時間も見直し、教職員の負担軽減を図っていく。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>教職員の皆様には、一分でも早く業務を終えるという意識をさらに強く持っていただきたいこと、そして車の両輪のごとく、時短に向けての職場改革ともいるべき雰囲気、環境づくりも必要と思います。時間を定めて、教職員全員がその時刻には退勤することを徹底して実行していただきたい。</p>

## (6) いじめの防止等についての取組に向けて

<b>重点目標</b>
「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を徹底し、「いじめ」を起こさない、許さない学校づくりを推進する。
<b>具体的な取組</b>
「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
<b>(取組結果を検証する) 各種指標</b>
<p>①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、生徒理解の研修・対策会議を開催するなど、組織的対応に努めている。</p> <p>※学校評価：教職員アンケート項目</p> <p>②学校いじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。</p> <p>③生徒は、学校に安心して楽しく通えている。</p> <p>※学校評価：生徒・保護者アンケート項目</p> <p>④生徒・保護者は、先生に気軽に質問・相談しやすい。</p> <p>※学校評価：生徒・保護者アンケート項目</p> <p>⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。</p> <p>※学校便り・学校運営協議会等</p>

## 中間評価

<b>各種指標結果</b>
① 生徒指導部会を毎週実施し、いじめ事案等の把握と組織的対応に努めている。
② 学校いじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介した。
③ 生徒の約 90%、保護者の約 94%が肯定的な回答であり昨年より良好であった。

- ④ 生徒の約 85%，保護者の約 88%が肯定的な回答であり昨年より良好であった。  
 ⑤ 学校ホームページで学校いじめ基本方針を周知した。

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	本校では概ね楽しく学校に通えているが、いじめアンケートの「友だちからされたことで、いやな思いをしたことはありますか。」の設問に「はい」と答えた生徒は 0 人ではなかった。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	引き続き「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を徹底し、「いじめ」を起こさない、許さない学校づくりを推進する。
	<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>
	①「楽しく学校に通っている。」 ※学校評価：生徒・保護者アンケート項目 ②「先生に気軽に質問・相談しやすい。」 ※学校評価：生徒・保護者アンケート項目
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>  メディア等で、最近のいじめは陰湿でかつ水面下で深く進行していくものと言われて久しい。いじめの防止等として是非「見逃しのない観察」「手遅れの無い対応」「心の通った指導」を徹底し、「いじめ」を起こさない、許さない学校づくりに引き続き努力願いたい。  「楽しく学校に通っている」ことを全員が享受できる中学校でなければダメだと思う。

### 最終評価

自己評価	<b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b>
	<b>肯定的回答の割合</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「楽しく学校に通っている。」 生徒 前回の約 90%から約 94%に増加、保護者 前回の約 94%から約 91%に減少</li> <li>・「先生に気軽に質問・相談しやすい。」 生徒 前回の約 85%から約 88%に増加、保護者 前回の約 88%から約 86%に減少</li> </ul>
	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	生徒は概ね学校を楽しいと感じて登校し、教師を信頼して落ち着いた学校生活を送っていると考えられる。しかし、そうではない生徒は依然としていることを真摯に受け止める必要がある。保護者については、家庭訪問や授業参観、部活動・各種行事の参観が中止・制限されることにより、教職員との関わる機会が減ったことによる不安が数字となって表れていると考えられる。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との関わり方について振り返り、改善すべき点を教職員間で再確認し、生徒を温かく支援できる体制づくりをしていきたい。</li> <li>・ホームページや PTA メールなどを積極的に活用し、情報を発信していくことで、保護者の学校理解と安心感を得ていきたい。</li> </ul>

## 学校関係者による意見・支援策

この一年はコロナ禍にあって、様々な活動が制約を受ける中、楽しく中学校生活が送れていな  
いということが不満となってストレスをためている生徒は多かったろうと思います。いじめ防止  
等としての「見逃しの無い観察」「手遅れの無い対応」「心の通った指導」を懇切丁寧にして頂く  
ことが、「先生に気軽に質問・相談しやすい」という生徒が増え、「楽しく学校に通っている」こ  
とにつながることだと思います。